

災害から守る

人々の生活基盤を確保するために、安全安心な地域づくりをめざして積極的に災害対策の整備を進めています。

災害に強い川づくり

洪水時の適切な情報伝達

地域住民の方々に安心していただくため、河川整備を行うとともに、洪水時には適切な情報伝達を行っています。常願寺川、神通川、庄川、小矢部川について、洪水の恐れがあると認められるときは、气象台と共同で洪水情報を発表します。

国土交通省と気象庁が共同発表する情報

水防団、関係行政機関及び放送機関・新聞社の協力を得て、地域住民の方々に洪水予報を発表します。

〇〇川はん濫発生情報

はん濫の発生の周知のため、はん濫が発生した時に発表します。

〇〇川はん濫危険情報

はん濫危険水位に到達した時に発表します。

〇〇川はん濫警戒情報

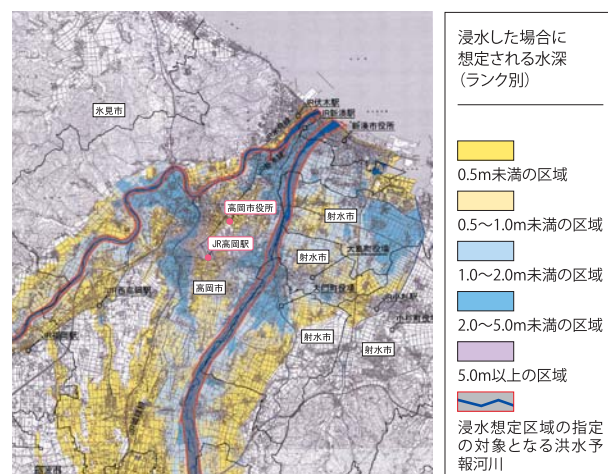
避難判断水位に到達した時、あるいは、水位予測に基づきはん濫危険水位に達すると見込まれた時に発表します。

〇〇川はん濫注意情報

はん濫注意水位に到達した時に発表します。

洪水による被害の軽減

平成14年9月、管内4河川について、決壊などの重大な洪水被害が生じた場合に想定される浸水区域とその水深、流域、到達時間を公表しました(浸水想定区域図)。これに基づき洪水ハザードマップは富山県内の全市町村で作成されています。



庄川・小矢部川浸水想定区域図

流域の安全確保

安心な地域づくりを目指し、築堤工事(堤防を高くしたり幅を広げる)や護岸工事(深掘れや侵食が激しい箇所に護岸を施工)を行い、洪水による被害を無くします。

■ 急流河川対策(常願寺川)

急流河川の常願寺川は、河床低下が進行し、既設護岸の根入れが不足しています。21年度は、水衝部となって堤防の決壊が懸念される水橋地区において護岸工事に着手します。



利田護岸

■ 急流河川工法の試験施工(常願寺川)

常願寺川扇状地の扇頂部の左岸上滝地区や西ノ番地区の堤防が決壊した場合、富山市に甚大な被害をもたらすと想定されます。土砂を含んだ流水の強大なエネルギーによる深掘れや侵食から洪水氾濫を防ぐため堤防の質的強化の試験施工を継続実施します。



富山市西ノ番

■ 弱小堤対策

堤防の高さが低く、断面が不足している箇所では、堤防の高さを高くしたり、断面を拡幅しています。21年度は、神通川水系熊野川富山市八日町地区、荒屋地区、神通川水系井田川富山市八尾町高善寺地区、庄川高岡市石瀬地区などで整備を行います。



高岡市石瀬地区

緊急河川敷道路

主要幹線道路間の非常時の物資輸送や消防車・救急車等の緊急車両のスムーズな移動を目的として、緊急用河川敷道路の整備を行っています。緊急河川敷道路は神通川右岸で整備されており、平常時には、散策路やマラソン大会等に利用されています。



神通川緊急河川敷道路

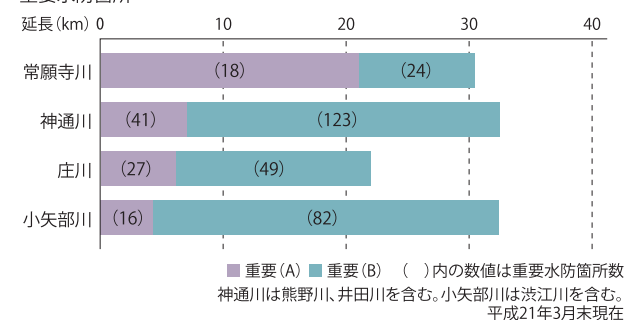
重要水防箇所

重要水防箇所とは、洪水時に危険が予想されるため、重点的に巡視する必要がある箇所です。重要水防箇所には「A:水防上最も重要な区間」「B:水防上重要な区間」「要注意区間」の種別があり、堤防の高さ不足などの観点で区分しています。富山河川国道事務所では、県や市町村、関係機関と水防連絡会を組織し、重要水防箇所の河川巡視を実施しています。



水防河川巡視

重要水防箇所



災害に強い道づくり

通行規制・集落の孤立化への対策

管内直轄国道は、災害時の緊急輸送路の要となる第1次緊急輸送路に指定されています。しかし、全ての路線が県境部付近に雨量規制などの通行規制区間を抱えており、緊急輸送路としての信頼性が低い状況です。特に国道41号猪谷地区および国道160号中波・阿尾地区は、通行止め時には代替路となる第1次緊急輸送路が存在しません。そのため大きな迂回の発生や沿線集落の孤立化が懸念されることから防災対策を実施しています。

富山県における通行規制区間



一般通行規制区間及び規制基準

路線名	規制区間		規制条件(通行止)気象等基準値	危険内容
	区間	延長(km)		
①	富山県小矢部市安楽寺 石川県河北郡津幡町九折	1.6	連続雨量180% _h	土砂崩落
②	富山県富山市猪谷 " " 楡原	6.5	// 120% _h 雪崩の発生が予想される時	落石等 雪崩
③	富山県砺波市庄川町小牧 " " " 金屋	2.5	// 150% _h 雪崩の発生が予想される時	落石等、雪崩 土砂崩落
④	富山県水見市中波 " " 宇波	5.7	// 160% _h	土砂崩落 落石等
⑤	富山県水見市宇波 " " 藪田	2.3	// 140% _h	土砂崩落 落石等

平成21年4月1日現在

■ 防災対策

平成8年度の防災点検及び平成18年度の再確認点検において、対策が必要とされた箇所の整備を推進し、通行規制区間における規制雨量の緩和を図るとともに、安全で円滑な交通を確保していきます。対策にあたっては迂回路の無い道路、通行規制区間の道路を優先的に整備していきます。

優先度	要対策箇所数			H20年度末整備済箇所数	H21年度末整備済箇所数(予定)
	H8防災点検時	H18再確認点検時	合計		
① 迂回路無し/通行規制有り	46	9	55	49	50
② 迂回路無し/通行規制無し	10	3	13	12	12
③ 迂回路有り/通行規制無し	0	2	2	2	2
④ 迂回路有り/通行規制有り	8	14	22	8	11
合計	64	28	92	71	75

震災対策

地震時においては、道路やライフラインを早期に確保するとともに地震に強い整備を行うことが重要です。

■ 橋梁耐震補強

新潟県中越地震を教訓として、落橋や橋脚の破断などの甚大な被害を防止するため、道路橋示方書に基づき、隣県との県庁間を結ぶ国道8号及び国道41号の橋梁を優先的に耐震補強の整備を進めていきます。平成21年度は金泉寺高架橋及び中島大橋等の耐震補強工事などを進めていきます。



国道8号高新高大橋

着手前

完成

橋梁点検

	橋長15m以上の橋梁数	H8以降の道路橋示方書に基づき設計された橋梁数	対策必要橋梁数	
				うち対策済
国道8号	55	21	34	4
国道41号	8	1	7	0
合計	63	22	41	4

■ 橋梁長寿命化計画

管内の道路橋のうち、昭和30年代(1960年前後)に建設された橋梁が197橋(51%)もあり、今後、これらの高齢化が一斉に進むことが予想されています。このため、橋梁の長寿命化計画を策定し、橋梁の管理コスト縮減と補修時期の平準化を図っていきます。この計画はこれまでの損傷が大きくなってから補修を行う「事後保全型」から、損傷が小さいうちに早期補修を行う「予防保全型」に転換し管理していくものです。

※事後保全型:橋の架け替え、床版打ち換え、部位の取り替え等
 予防保全型:部分補修、塗装塗替え、桁・排水箇所の清掃等

除雪

降雪期には79台の除雪機械を配備して作業を実施しています。道路除雪をスムーズに行うために、降雪・凍結の予測、交通量や路面状況などの正確な情報が欠かせません。そのため、監視カメラなどの道路情報機器やよまめなパトロールで情報を集め、迅速な対応に努めています。



富山市星井町

■ 無電柱化

電線切断や電柱の倒壊は、災害時の避難路確保や救援活動の障害になる可能性があります。富山県内の市街地部を通過する直轄国道の無電柱化は、約5割の整備にとどまっています。そのため無電柱化を推進し、道路の持つ都市防災機能を向上するとともに、街並み景観の向上、情報通信網の構築を図ります。平成21年度は、国道41号富山市新庄町～向新庄町並びに高岡市南幸町～御馬出町で整備を進めます。



富山市無電柱化計画図

■ 道の駅防災拠点化

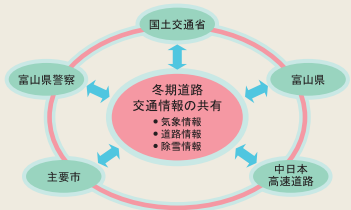
道の駅は、休憩及び情報発信機能の他、大規模災害時の避難所、生活支援・復旧工事車両駐車場、道路交通情報提供等の防災拠点としても機能します。県内では北陸初の防災機能を備えた「万葉の里高岡」に続き、「カモンパーク新湊」で発動発電機などを整備し、防災拠点化を進めます。



道の駅

■ 富山冬期交通確保連携会議

異常気象・事象発生時における幹線道路の不通や交通渋滞等を回避及び早期復旧するため、富山高岡都市圏を対象とした関係機関(7機関)の連携方策を検討し、雪に強い道路管理を推進することを目的に取り組みを実施しており、今後もより実働的・効率的な連携会議となるよう継続していきます。



防災・減災の取組み

災害への備え…防災センター

地震や風水害、雪害など災害発生時に、人命や財産、経済活動等を守るため、河川・道路などの防災活動の拠点として、各防災センターには災害対策機械を配備し、広域的に対応できる体制を整備しています。また、地方自治体との連携により、災害対応を行うための相互支援基地となります。

■ 富山防災センター(北陸地方整備局)

北陸地方整備局管内の富山県・石川県の広域的な防災活動の拠点として災害対策室やヘリポートを常願寺川右岸(富山市水橋入江地区)に設置しています。

■ 福岡防災ステーション(富山河川国道事務所)

地域防災拠点として、防災情報の収集・発信、水防活動の緊急復旧などを円滑に行うため、河川管理者(国土交通省)、水防管理者(高岡市)、富山・福岡ヘリポート(第三セクター)が一体となって小矢部川左岸(高岡市福岡町土屋地区)に設置しています。



富山防災センター

福岡防災ステーション

施設名	災害対策機械	数量
富山防災センター	対策本部車(拡幅型)	1台
	衛星通信車	1台
	排水ポンプ車(60m ³ /min)	1台
	排水ポンプ車(20m ³ /min・1kW×8灯)	1台
	照明車(2kW×4灯)	1台
	待機支援車(支援用バス型)	1台
	待機支援車(資材運搬用)	1台
	情報収集車(先遣用)	1台
	遠隔操縦対応型油圧ショベル(1.4m ³ 級)	1台
	応急組立橋(6m×40m)	1橋
福岡防災ステーション	排水ポンプ車(30m ³ /min)	2台
	照明車(2kW×6灯・2柱式)	2台
三郷出張所	排水ポンプ車(30m ³ /min)	1台
	照明車(2kW×6灯・2柱式)	1台

(H21.3月現在)



排水ポンプ車(30m³/min)



衛星通信車

■ 防災ヘリコプター(北陸地方整備局)

災害発生初動時に、広域的・機能的な災害情報の収集や災害対策・資機材の輸送など、自然災害に迅速に対応するために、平成17年度に防災ヘリコプターを新潟空港に配備しました。



防災ヘリコプター「ほくりく号」

防災ネット富山

国、富山県、県内各市町村がそれぞれの保有する光ケーブルで繋がることにより、全県域で雨量・水位データ、国道や河川などのカメラ映像を共有することが可能となりました。なお、一般家庭でもこれらのデータと同じものをインターネットで見ることが出来ます。この防災の情報網「防災ネット富山」により、官民ともに早い段階から災害に備えることが可能になりました。

携帯サイトで「かわみちナビ」という名称で情報提供しています。いつでもどこでも携帯からパレットとやまの防災情報にアクセス可能。



防災ネット富山 <http://www.palette.go.jp/bousainet/>

《アドレス》
<http://www.hrr.mlit.go.jp/toyama/i/>



QRコード

CATV・ラジオとの連携

平成19年2月より国と富山県ケーブルテレビ協議会は、災害時に「防災ネット富山」のデータを見やすいように加工し、ケーブルテレビで災害情報番組を放映できる体制となっており、インターネット環境にない家庭でも、防災情報がお茶の間で視聴できます。また、災害時のラジオ放送に関する協定を、富山シティエフエム(株)、(株)エフエムとなみ、(株)ラジオたかおか、(株)新川コミュニティ放送と結んでおり、災害に強い県づくりを進めています。



日本新聞ニュース…自民総選挙が告示され



ケーブルテレビ富山 携帯電話3社は、ケーブルテレビ放映画像